

今回の裏面は、G2学級通信「しゅくらん」から

だから勉強はおもしろい！！

あるところに、こんなお話が書かれていました。

あるところに男の子がいました。その子の名前は、野原といいます。男の子は、元気にもりもり食べ、石をけるのがすきでした。ある日、池に石をけつたら、大きな虫に会いました。
びっくりしてにげましたとき。(どんどはれ)

実に上手なお話です。最後「とき」で終わっているところが民話調で、かわいらしいですね。

ちなみに、原文には、「どんどはれ」はありません。(岩手では、民話の語り手がお話の最後にこう言います。)書きたいことは、これらとは全く関係ない話です。

この文章は、Sさんの自作のお話です。そこには、こうも書かれてあります。

『**今回のかん字いりおはなし**』そうです、実はこの日の宿題プリントの漢字「名前・池・石・男の子・元気・食べる・大きい・虫・野原」を使って書かれていたものなのです。

与えられた課題を確実にやっても十分なG2の年齢ですが、こうやってSさんのように、ちょっと工夫して勉強するというのも楽しくなりますよね。そして、いつかは、「与えられたものから、自ら進んで課題を見つけて学習する」ことに移っていかなければならないはずですよ。そして、その中から、学ぶ楽しさを学んでいくのに違いありません。

だから勉強は、学ぶってことは、おもしろいのですよね。

すぐくほのぼのとした話題を扱いながら、大切な要素について言及している。Sさんのお話も素敵ですが、それを見つけて出して紹介する先生も素敵です。

今日はもう一つ、文章を紹介いたします。10年ほど前にDJSに勤務していた先生が、冬休みにご家族で来校されたのですが、帰国後、DJSでの思い出をメールで送っていただきました。

2010年(平成22年)4月から3年間勤務しました佐藤文彦といいます。

私が勤務していた当時のドバイは、着任前年にブルジュ・カリファとドバイメトロ(レッドライン)が完成し、日本人の急激な増加が少し落ち着いた時期でした。

DJSの子どもたちは、何事に対してもとても意欲をもち、「一生懸命がかっこいい」を合言葉に元気に学校生活を送っていました。

音楽発表会・熱砂祭・運動会(三大行事)、ビーチでのデイキャンプ(G1・G3)、オマーンへの修学旅行(G6)など様々な思い出がありますが、私にとって一番の思い出は2011年3月11日に発生した東日本大震災です。

日本の震災の様子は世界中のテレビ局で報道されていたので、ドバイのテレビでもたくさん目にしました。そのせいか、街を歩いていると、多くの外国人の人々が「この度の地震は大変でしたね。しかし、日本は素晴らしい国で、日本人は素晴らしい民族であると世界中の人が知っています。日本は必ず復興すると信じているし、心から応援しているよ。」と日本人である私たちに励ましの声を掛けてくれました。また、地元のオーケストラがチャリティーコンサートを開催してくださり、お礼としてDJSの児童生徒で「ふるさと」を合唱しました。日本人は世界の人から信頼され応援されていることを肌で感じ、とても勇気づけられました。

DJSの在校生の皆さん、卒業生の皆さんも、日本人であることに自信と誇りをもって、世界で活躍してほしいと願っています。

元ドバイ日本人学校 教諭 佐藤文彦(横浜市より派遣)